

本校福祉科の卒業生が **神奈川新聞** に掲載されました！！

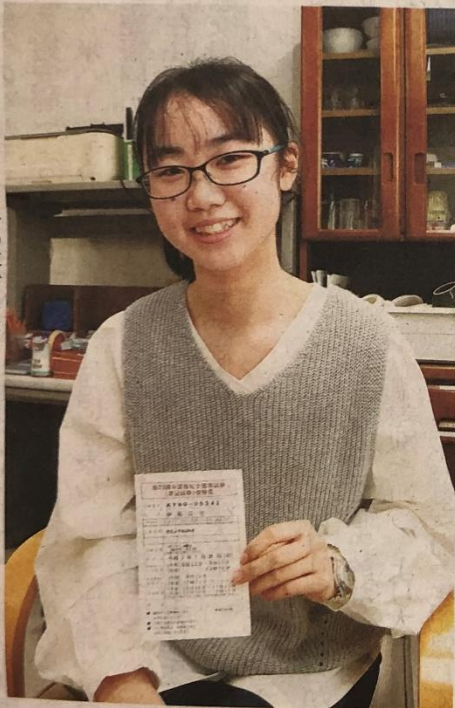
2021. 4. 2朝刊

「祖父支えてくれた人のように」

川崎市立川崎高校（川崎区）を今春巣立った伊藤江里さん(18)＝幸区＝は「夢への切符」を手に大学へ進学する。卒業前に受験した介護福祉士の国家試験は、新型コロナの影響で施設実習ができないなどの逆境をはねのけ合格。「亡き祖父を支えてくれた職員のように、利用者や家族を笑顔にしたい」。期待に胸を膨らませながら、福祉の道に進む。
(井口 孝夫)

思い胸に福祉の道へ

川崎・伊藤さん 国家試験合格



受験票を手に合格の喜びを語る伊藤さん（川崎市立川崎高校）

伊藤さんが介護の仕事に興味を持ったきっかけは、子どもの頃に目にした祖父の姿だった。足腰が悪かったが、介護施設のデイサービスに出かけると、いつも楽しそうに帰ってくる様子を見て不思議に思った。

施設で作った切り絵やビーズ、キーホルダーをくれたことや、家まで迎えに来る職員や利用者が楽しそうに会話を弾ませる様子を見て、「祖父はいつも生き生きしていた。私も笑顔を支える仕事に就きたい」と思うようになった。

祖父は、伊藤さんが中学3年のときに体調が悪化。卒業後の進路を決める時期と重なり、「介護現場で生かせる知識を学べば、すぐに祖父を助けられる」との思いで市立川崎高の福祉科への進学を決めた。祖父はこの年の11月に亡くなったが、「お年寄りを支えたい」との思いは変わらな

いままだった。

同年は35人で、介護福祉士の国家試験合格を目指して支え合った。3年時はコロナ禍でオンライン授業が続き、施設実習もできず入所者らと関わる機会は無かったが、それでも友人と試験問題を解き合うなどして2年ぶり3回目の全員合格を成し遂げた。3月26日の吉報に触れ、「クラス全員で頑張ったので自信はあった」と目を輝かせた。

4月からは田園調布学園大（麻生区）の心理学科に進む。将来は障害のある子どもたちを支える施設で働き、心理学で学んだ知識も生かすつもりだ。「祖父に関わった職員たちのように、人を支える介護職員になりたい」